

各協同組合からのお知らせ  
 MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

### 「こ～ぷの森貞任山」植林体験会参加者募集

アルミ缶の回収売却益やみなさんからの募金等で作っている“こ～ぷの森”。5番目の「こ～ぷの森貞任山」に広葉樹を植えます。広葉樹の森から流れ出る栄養分豊かな水はやがて海に注ぎます。そこで、産直力キのふるさと志津川湾の上流にある貞任山が広葉樹の森になるように皆で植林します。産直志津川湾産生かきの生産現場の見学も予定しています。



日 時：2009年4月25日（土）  
 集 合：仙台駅西口バスプール 8：20 ※ 17：00 解散予定  
 現地集合もあり（別途案内）  
 参加費：2,000円（中学生以下半額）  
 現地集合 500円  
 開催場所：南三陸町志津川  
 募集人数：40人（応募多数の場合抽選。結果を通知）  
 締め切り：4月10日（金）

- 申し込み方法  
 住所・氏名・電話番号を明記の上、下記までハガキ・FAX・メールにて
- 申し込み・問い合わせ先  
 みやぎ生協 生活文化部 緑の基金運営事務局 担当：昆野  
 〒981-3194 仙台市泉区八乙女 4-2-2  
 TEL：022-218-3880  
 FAX：022-218-3663  
 Eメール：kankyok@snet.coop.or.jp



## MELON20 周年をめざせ！

# 50 人リレートーク



第 25 回目の執筆者  
 三塚牧夫さん  
 （ナマズのがっこう事務局長）

わが国の 水田地帯では生産効率を上げるために、1960 年代から圃場整備事業が進められてきた。

圃場整備事業は水田の区画を大きな区画にし、トラクターやコンバインの農業機械の作業効率を向上させ、農家を重労働から解放し、効率的な営農を可能にするものである。

水路は土水路からコンクリート3面水路に変えられ、泥の堆積や水草発生がなくなり、農家の管理作業は軽減されたが水路や水田を生息場所としていたメダカ、ドジョウ等の魚類やカエル等の生きものが極度に減少し、水田まわりの生態系全体が崩壊の危機に瀕していると言っても過言ではない。

このような状況は、伊豆沼・内沼周辺の水田でも見られるため、地域住民が田園自然環境の再生と環境創造型農業の推進のため、「ナマズのがっ

こう」を平成15年7月に結成し、次の活動に取り組んでいます。

- ①水田をメダカやドジョウの生息場所とするための水田魚道の開発・遡上実験
- ②カエルの移動を考えた排水路工法
- ③農薬や化学肥料を使用しない「ふゆみずたんぼ（冬期湛水水田）」の取り組み
- ④こどもたちへの環境教育のための「たんぼの学校」の開催
- ⑤伊豆沼・内沼上流域ため池の「池干し」によるオオクチバス駆除活動
- ⑥ゼニタナゴ、シナイモツゴ、ニホンアカガエルの保全活動
- ⑦ピオトープの造成

水田魚道については、軽量で安価な波付のU型、波付の丸型の既製品を利用した工法を確立し、全国に設置活動を展開している。

会の活動も6年経過したがまだ点的な活動であるが今後は面的な活動にしていきたい。

…次号執筆者…  
 進東健太郎さん  
 （バス・バスターズ）

